

“2030ビジョン”プロジェクトとは？

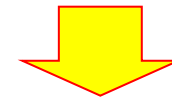
一般市民の目線で、自分たちがどういう社会を目指すかを考え、みんなで智慧を出し合い実現していこうとする活動です



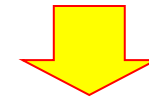
国がどこへ向かうのか

2030ビジョン

皆で目指す社会像を考える



課題と達成手段を考える



実現に向け 自ら行動する

現実を良く観る

- ・少子高齢化 ・教育 ・医療福祉
- ・食料 ・資源エネルギー
- ・経済 ・財政 ・政治システム

ビジョンがあれば

- ① 皆の目指す姿が共有でき、判断がぶれません。
- ② 夢と希望が出て、意欲が高まります。
- ③ 難しい状況を切り拓く拠りどころができます。

このプロジェクトが目指すもの

生活者の視点で

子供たちに明るい未来を提供できる

「**日本の将来ビジョンを共有する**」こと

そのうえで

ビジョンを実現するための

「**具体的な取組をしていく**」こと

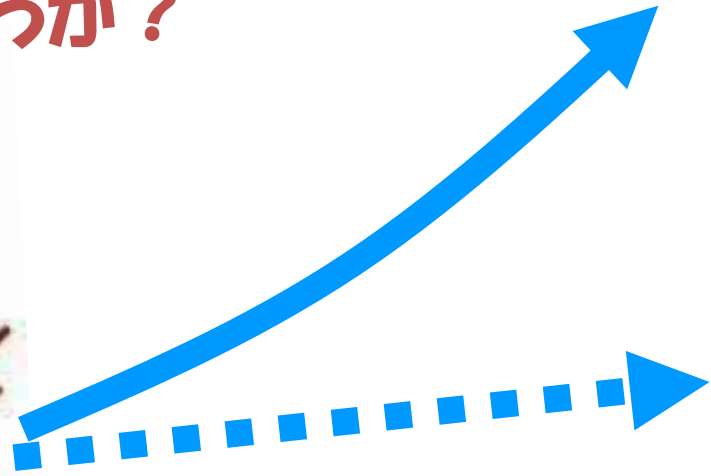
**2030年までに
皆が希望を持てる
幸せで持続可能な国
を実現する**

なぜこの取組みが必要か

目指す姿は、
共有されているのだろうか？

日本は、どこに向かおう
としているのだろうか？

将来のあいよう



行く手には氷山が待受けて
いるかもしれない・・・

タイタニック号のように・・・

皆が将来に不安を抱きながら
解決策が見えない現状で良いのでしょうか

“2030ビジョン”プロジェクトのゴールは？

変化の大きな時代の波を乗り越えて
幸せが感じられる社会をつくります

大目標

2030年
日本国民が
安心して暮らせ
幸せを感じられる
社会となる

中目標

2012年
日本国民の2割が
経済最優先から
生活の満足を目標とする
考え方に変わる

小目標

2009年秋
“2030ビジョン”
共有開始

2010年1月
具体的行動が始まる

時間

2008

2010

2020

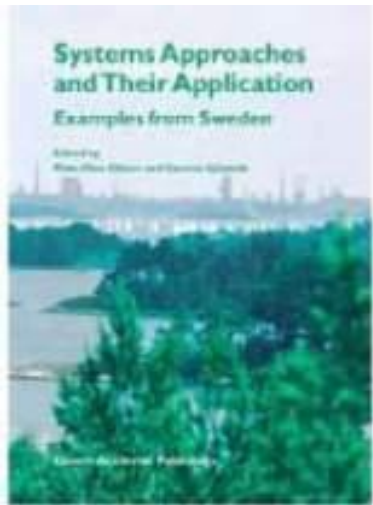
2030

拡がり



なぜ 2030年なのか？

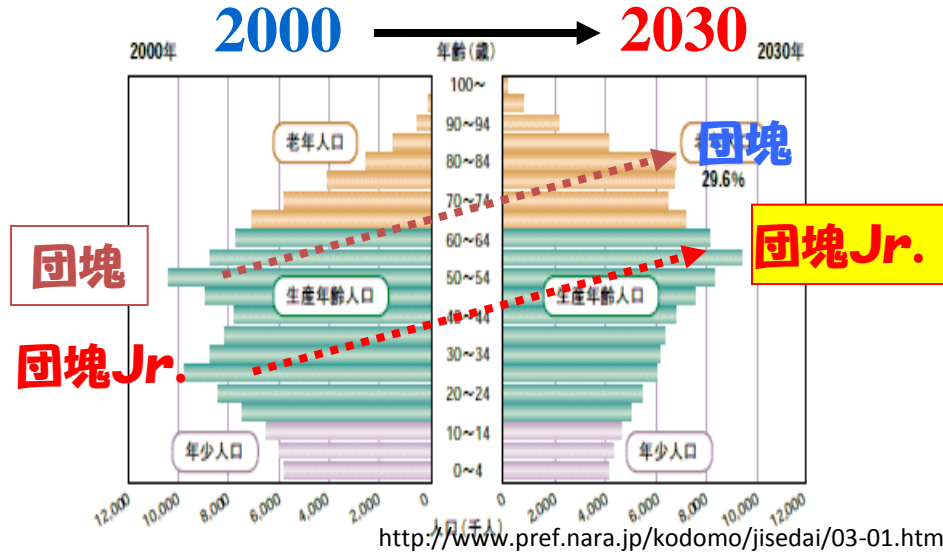
① 変革には20年は必要だ



スウェーデン政府
2021 国家目標
1999 年策定 (22年前)

10年先では早すぎ
40年先では遅すぎる

② リーダーが 団塊 ⇒ 団塊 Jr.



③ いろいろな変化を経験した後

- ・経済 2009~2015?
- ・災害 2011~2025?
- ・財政 2015~2020?
- ・食料 2020~2025?
- ・資源 2025~2030?

⇒ 価値観の大転換が起きるだろう...

④ 他のビジョンや構想もある

滋賀県基本構想

—未来を拓く共生社会へ—

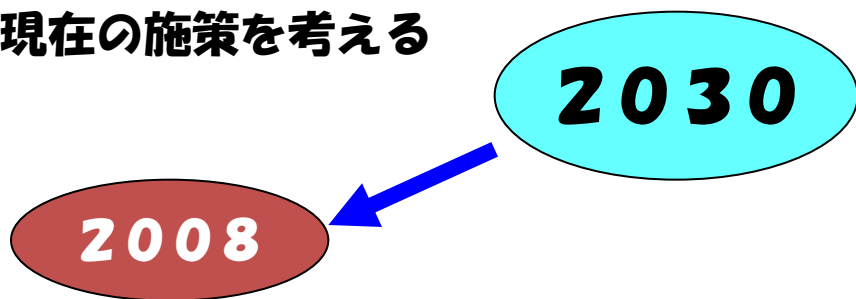


どのようにビジョンを描き、実現するか？

① ありたい姿から発想する

●バックキャストिंग

将来像を定めて、
現在の施策を考える



② 将来を担う世代の意見を反映

●若い世代の意見を尊重

- ・中学生、高校生、大学生
- ・20代、30代



③ 民間発のビジョンづくり

●市民の総知を結集

幅広く生活者の意見を集める

- ・タウンミーティング
- ・ネットコミュニティー
- ・草の根ネットワーク

④ 民が主体的に取り組む

目指す姿

取組課題

実現手段

お上依存ではなく、自ら取り組んでいく

“2030ビジョン”を実現するプロセス



社会がどこへ向かうのか

① 目指す姿を考える

③
G
A
P

④
要
因

⑤
実
現
手
段

日本の現実

- ・少子高齢化 ・教育 ・医療福祉
- ・食料 ・資源エネルギー
- ・経済 ・財政 ・政治システム

② 現実をよく見る

ビジョン実現のプロセス

①: 目指す姿を考える

②: 現実をよく見る

③: ①と②のGAPを良く観る

④: ③GAPの要因を考える

⑤: ④を解決する手段を定める

2030年のありたい姿 (人々の暮らし)

子供・若者

- 学校・学びが面白い
- 将来にいくつも夢がある
- 長所を伸ばしやる気満々

子育て世代

- パートナーを得やすい
- 安心して子供が産める
- 教育の心配が要らない



生活に安心感があり
一人ひとりが活き活きする

高齢者

- 老後に不安がない
- ピンピンころりのメリハリ人生
- 社会との関わりを実感できる

働く人

- 働くことに喜びがある
- 仕事を通して成長を実感する
- 暮らしと仕事のバランスが良い

コミュニティー

- 共感で繋がる多様な場
- 斜めの関係で築く世代間の絆
- 相互扶助・互恵のココロ



2030年のありたい姿 (日本社会)

将来安心

- 財政破たんを乗り越えている
- 格差を感じない社会
- 近隣国との平和共存

教育福祉

- 出生率が高く子どもが多い
- 育児・教育の仕組み充実
- 医療介護制度の充実

将来に不安のない
持続可能な社会

暮し安心

- エネルギー自給率が高い
- 自然災害への高いタフネス
- 資源の再活用・循環型社会

食の安心

- 食料自給率が高い
- 地産地消で安心な食
- 農林漁業が重用される

生活者主権

- 国民目線と一致した民主政治
- 住民に密着した地方分権
- NPO・民間が“公”を担う

どのようにしてビジョンを実現していくか？

皆の想いを結集して 将来ビジョンをつくり、
具体的行動をしながら 世の中に広めていく

はじめは
草の根から

イノベーター
2.5%

想いのある人たちが結集して
目指す将来像をつくり、
具体的行動を始める

社会のムーブメントを起こす

賛同者を広げる

場をつくる

メディアが伝える

政・官・学を仲間にする

政策に反映される

みんなの意識が変わる

社会が変わる

2030

世の中



ビジョンの実現に向けて

■ いろんな活動を繋げていく

- 点から線へ 線から面へ
- 日本中にネットワークをつくる
- 具体的な活動ともつなげながら



例えば
● ビジョンのネットワーク
● 食のネットワーク
● 教育のネットワーク

■ 誰がやるのかを意識しながら進めていく



まずは自分／自分たちから動いて行こう

ありたい姿と実現に向けた取組み (サンプル)

ありたい姿

個人の取組み
(自分/家庭)

コミュニティ
(地域、企業、仲間)

社会の取組み
(政治、行政、価値観)

子供・若者

- 学校・学びが面白い
- 長所を伸ばし やる気満々
- 将来にいくつも夢がある

「教育：教え育てる」から「共育：共に育くむ」にかわる

- ・乳児期は親とともに過ごす
- ・叱るより誉めることを大切に
- ・家族が一緒にご飯を食べる
- ・自ら考える力を身に着ける
- ・子どもの自発性を重んじる

- ・自由に遊べる場を増やす
- ・地域が子育てを支える
- ・若い時に子守り経験をする
- ・社会と個人の関わりを増す
- ・生涯教育の場をたくさん作る

- ・幼保育環境を充実する
- ・義務教育は無償にする
- ・「社会が子育て」の意識を持つ
- ・教員のステータスを高める
- ・教育現場の自由裁量を増す

働く人

- 働くことに喜びがある
- 仕事を通して成長を実感する
- 暮らしと仕事のバランスが良い

人を活かし自分を大切にする働き方にかわる

- ・長時間労働をしない
- ・定時間で必要な収入を得る
- ・通勤に時間を費やさない
- ・企業に属さない働き方
- ・自分を活かせる仕事を得る

- ・企業は三方よしの精神を持つ
- ・推譲(未来への投資)を意識
- ・在宅などの多様な働き方
- ・働く女性を本気で重用する
- ・無意味な過当競争を避ける

- ・労働時間を1600h以下に
- ・賃金を高め格差をなくす
- ・ワークシェアの考えを共有する
- ・都会への集中を止める
- ・起業や地域就労を支援する

子育て世代

- パートナーを得やすい
- 安心して子供が産める
- 子育て・教育の心配が要らない

ツナガリのある暮らしを大切にする

- ・コミュニケーション力を高める
- ・人とのツナガリの時間を作る
- ・早めにパートナーを得る
- ・付き合いを大切にする
- ・他人にもにこやかに接する

- ・地域、趣味、SNS、社会活動、
いろんなつながりを持つ
- ・男女が知合う場を増やす
- ・多様なニーズに合う場づくり
- ・地域セーフティネットの役割

- ・地域の交流の場を増やす
- ・フューチャーセンターをつくる
- ・地域の歴史文化を見つめ直す
- ・地域活動を支援する
- ・行政の一部を民間が担う

高齢者

- 老後に不安がない
- ピンピンころりのメリハリ人生
- 社会との関わりを実感できる

自ら健康と生きがいをつくりだす

- ・若いうちから健康づくりをする
- ・年をとっても体操を続ける
- ・体を動かす仕事や場を持つ
- ・認知症予防と早めの治療
- ・自ら積極的に関わりを持つ

- ・地域の健康づくりの仕組み
- ・子どもと年寄りが共存する場
- ・シニアをコミュニティに活かす
- ・高齢者の見守りや保護をする
- ・地域での居場所と出番をつくる

- ・「健康は自らつくる」意識改革
- ・医療介護費の応分負担意識
- ・施設型ケアからの転換
- ・健康寿命≒平均寿命を目指す
- ・ユニバーサルデザインの街